

# 令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名( 宮崎県 )

## 1. 取組についての評価

・マイスターハイスクールは、専門高校と産業界等と一体となって次世代地域産業人材を育成することであり、単なる職業訓練校としてではなく、時代や国の施策に則って専門高校と産業界や地域が一体となって人材育成を行なっていくことが求められる。その観点から、農林水産省が掲げる「みどりの食料システム戦略」を基盤とした学習プログラムを開発し、調達～生産～加工・流通～消費に至るバリューチェーンを総合的に俯瞰し、それぞれの課題を浮き彫りにしながら、生徒、教員、産業界、地域が課題や目的を共有し、同じベクトルに向かって次世代の農業や食産業で必要とされる人材育成に取り組んだ点が評価できる。

・意識調査結果からは、学校からの押し付けの教育ではなく、生徒が主体性を持って取り組む姿勢や地域産業への理解、キャリア意識の深化が進んだことが示され、教員も生徒と共に教育のビジョンを共有できたことなども取り組みの成果として挙げられる。

・EUのFarm to Fork戦略などを参考に策定された「みどりの食料システム戦略」をテーマに位置づけた上で、海外の農業・食文化の学習や学校との国際交流を図るなど、グローバルな視点で学びの機会を設けた点が評価できる。

・大学や国、県、JA、中学校などと連携して事業運営委員会を設置した上で、産業界と課題・目的を共有して人材育成プログラムの開発にチャレンジしており、幅広い関係機関との連携体制の構築したことが評価できる。

・本校生産物を原料としたジェラート開発では、海外の機材導入にとどまらず講師も本場イタリアから迎え、製造方法はさることながら”職人”の想いや目的などを直接学べる機会を設けている。

・来年度も「学科横断型学習」を受けた方が良いか？の問いに対して9割超えの生徒が「とても当てはまる」(62.5%)、「やや当てはまる」(30.8%)と回答していることから、学科の域を超えた横断的学習による生徒の学び・体験の効果が極めて顕著であったと史料される。

## 2. 今後の課題と考えられること

・これまで取り組んで来たことを継続的に発展していくために、地域農政局、県農政部門、JA、地域大学等との連携を深化させ、自立・自走化に向けた取組を期待する。

・宮崎県内でも加工や輸出などに取り組む優良経営体(農業法人)は数多くあるため、今後の連携強化による継続的かつ発展的な取組に期待。

・「みどりの食料システム戦略」のモデルとなったヨーロッパにおける農業の位置づけ(高位)や政策の充実などを踏まえ、我が国における農業や食に対する政策の在り方や国民理解を深化するための学習機会の導入に期待。